

原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合（第870回）  
東京電力ホールディングス株式会社に関する指摘内容

令和2年7月1日  
原子力規制庁  
新基準適合性審査チーム

【建物・構築物における地震応答解析モデルの既工認からの変更点】

- 今回工認において、補助壁の負担せん断力を減じて設計を行っているRCCVについて、地震応答解析、応力解析、許容限界等の観点に対する保守性の考え方を整理して説明すること。
- 床スラブについて、補助壁が負担したせん断力を下層へ伝達する役割を担うことから、補助壁が負担するせん断力を床スラブが十分に伝達できていることを説明すること。

【建物・構築物の応力解析における弾塑性解析の採用】

- 弾塑性解析を適用するRCCVの評価について、境界条件として用いている床スラブを弾性としてモデル化していることの根拠を説明すること。また、コンクリート強度のばらつきや補助壁等の考慮の有無が拘束効果及び評価結果に与える影響に対する考察を説明すること。
- 弾塑性解析結果による応力、ひずみの程度、分布状況等を示した上で、今回工認において応力平均化を適用する対象領域及びその周辺領域の配筋状況、各応力の分布状況等を分析して説明すること。また、今回工認において、弾塑性解析を適用し、更に応力平均化を行うことの合理性及び適用範囲について説明すること。